

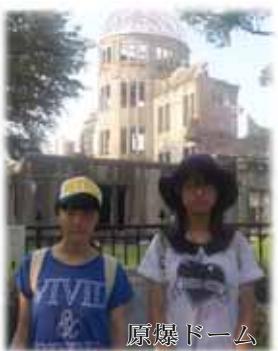


## 原爆の子の像

# 戦後70年 原水爆禁止2015世界大会[広島]派遣 中学生からのメッセージ

8月4日(火)から6日(木)まで、広島県で「原水爆禁止2015世界大会」が開催され、赤平市から2名の中学生が参加しました。

戦後70年、同時に被爆から70年。戦争の悲惨さを体験した語りべが高齢化し、次世代への継承が課題となる中、赤平の中学生成が広島で受け継いだ平和への思いをつづりました。



原爆ドーム

私は赤平派遣団として広島に行き、様々なことを学びました。まず始めに、折鶴平和行進に参加しました。平和を強く願う人が大勢参加していました。全世界の人たちが平和を願つてくれていると思うと、感動しました。

次に、被爆70周年原水爆禁止世界大会に参加しました。ここでは実際に被爆された方から、原爆が落とされてからの様子など色々なお話を聞きました。その方は、8月6日病院に向かっている途中で被爆されました。一瞬で周りの様子が変わっていて、何が起きたのか分からず、学校に行つたところです。すると、何人もの下級生をしたそうです。同じ学校の生徒が手から爪や皮をたらして、苦しんでいたのです。その方は手当をしました。こんなに辛いお話をしてくれたことに感謝し、それを私たちが次の世代に伝えていきたいと思いました。

3日目、私は平和資料館で衝撃を受けました。原爆はたった3mの大きさだったからです。こんなに小さなもののが広島を焼け野原にしたことによっても驚きを感じたとともに、悲しさも感じました。この3日間を通して、戦争の苦しさ、平和の大切さを改めて学びました。今回広島に行き、さらに戦争に対する怒り、犠牲者の人たちの悲しみ、原爆への衝撃、多くの感情が私の中にわいてきました。私が広島で学んできたことを多く的人に伝え、核兵器のない平和な社会が、この先もずっと続いくことを願っています。

にんげんの にんげんのよのあ  
るかぎり くずれぬへいわを  
へいわをかえせ」

私はこの詩を読んで、望んでもい  
ないのに一瞬にして家族を失う  
辛さを感じました。みんなの人生  
を変えた原爆はもう使わないで  
ほしいと強く思いました。

次の日、フィールドワークに参 加しました。平和公園内にあるたくさんの慰霊碑を見て回りました。私はその中でも特に「峰三吉 詩碑」が印象に残っています。「ちちをかえせ ははをかえせ」とよりをかえせ こどもをかえせ わたしをかえせ わたしにつながるにんげんをかえせ



「みんなの願い」  
赤平中学校2年  
若林 優生さん

いて よくわかりました。  
2日目、子ども慰霊祭では色々な都道府県の代表者が平和についての想いを発表していました。みんな平和に対する同じ想いを持つついて感動しました。フリー

学校の下級生。火傷などで水が飲めず苦しんでいる同級生。その光景を思い出すことは辛いけれども、未来を担う私たちと世界の平和な未来のために、核と戦争の恐ろしさを伝えてくださいました

1日目、私たちは広島に着いてすぐには折鶴平和行進に参加し、広島のまちを歩きました。次に被爆70周年原水爆禁止世界大会に参加して、戦争反対を強く願う方々のお話を聞きました。どの話も説得力がとてもあり、色々と考えさせられましたが、その中でも特に印象的だったのが、実際に被爆された女性の方のお話でした。目の前で次々と亡くなつていく同じ

私は赤平派遣団として、広島県で開催された原水禁2015世界大会に参加してきました。

ルドワークでは、色々な慰霊碑を見てまわりました。たくさんの慰霊碑があることに驚くとともに、被爆された方の多さを改めて感じ、とても悲しくなりました。その後、メッセージ from ヒロシマに参加し、原爆の恐ろしさについて参加者みんなで考えました。初めて知った知識も多く、勉強に



ていかなは  
ればならな  
いと思いま  
した。

遺品・写真・実物大の模型をみたとき、原爆の恐ろしさを心の底から痛感しました。この3日間で学んだこと感じたことを、私は絶対に忘れません。ここで学んだ事を自分のまわりの人々に伝えていきたいです。みんなの願いは、「核も戦争もない世界」「平和な世界」。私たちは唯一の被爆国の国民として、しつかり